

国立大学等の運営費交付金に関するアンケート（まとめ） （基盤的経費の減少・不安定化の影響について）

アンケートの目的

国立大学等の運営費交付金については、総額はここ数年横ばいが続いていますが、その内容を見ると業績連動的な部分が増加し、教職員の人件費等に使える基盤的な部分は減少・不安定化してきています。そのため大学等の運営は大変厳しい状況となっており、教員からは、「研究費が足りない」「人員が足りない」といった声が聞かれます。また、教育研究の高度化や最近のインフレ傾向のなかで教育研究に必要な経費は年々増加しています。

そこで、教員の教育研究環境に焦点を当てて、どのような影響が生じているのかを調べることを目的に本アンケートを実施しました。

実施方法

6月15日から8月31日にかけて、Googleフォームを利用して回答を得ました。全大教ホームページでアナウンスするとともに、全大教加盟組合に組合員への周知と回答の要請を行いました。

回答数

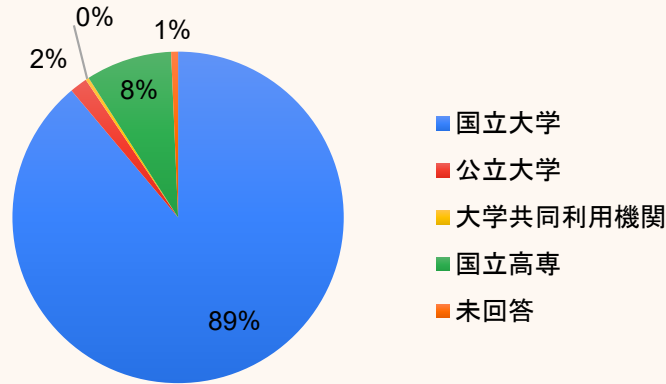
国公立大学・大学共同利用機関・国立高専の教員から882件の回答がありました。

国公立大学・大学共同利用機関のまとめ

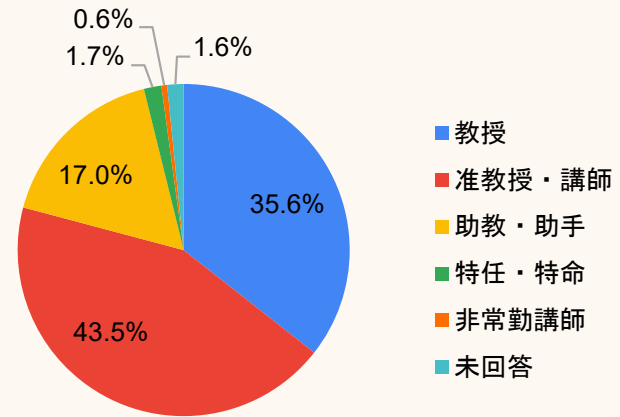
このまとめの2以降は、国公立大学・大学共同利用機関の808件の回答についてまとめています。

1. 回答者の属性

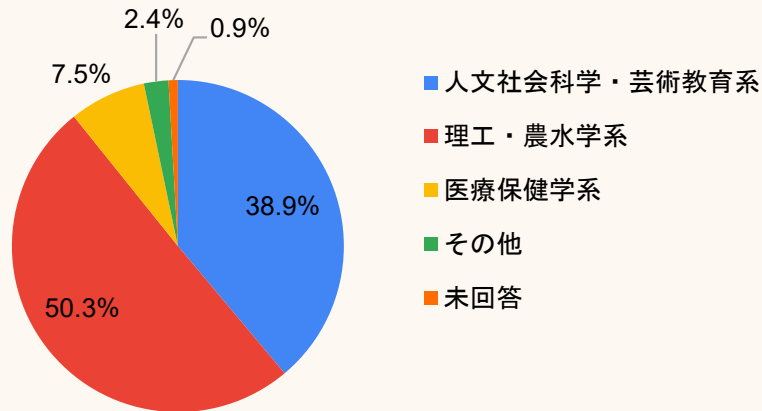
所属



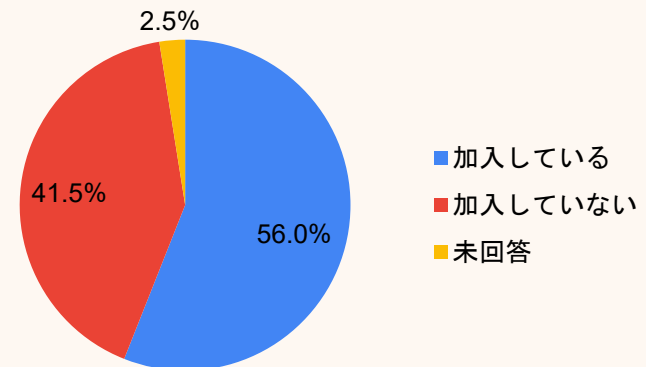
職階



専門分野



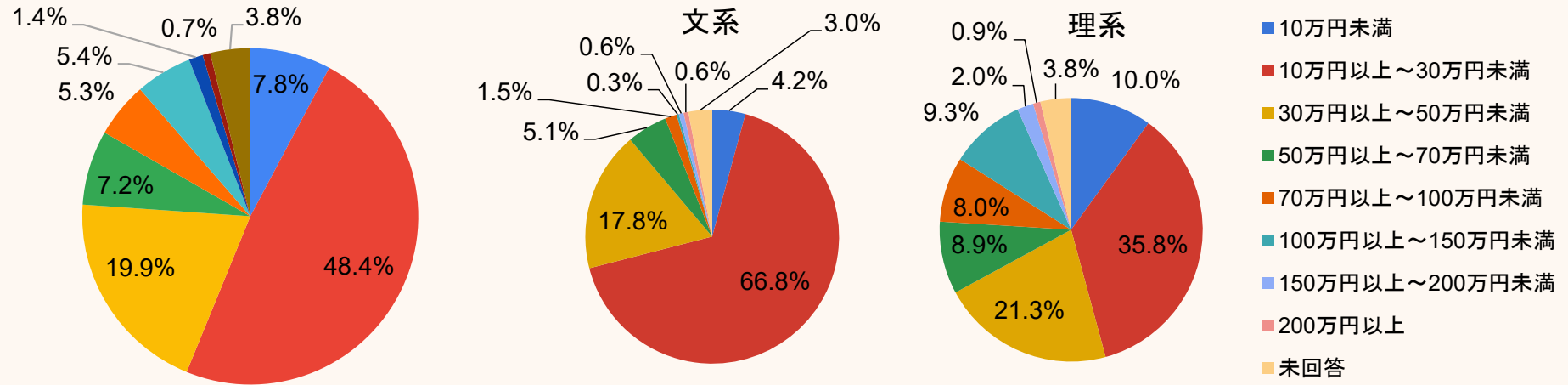
組合加入



2. 校費の金額

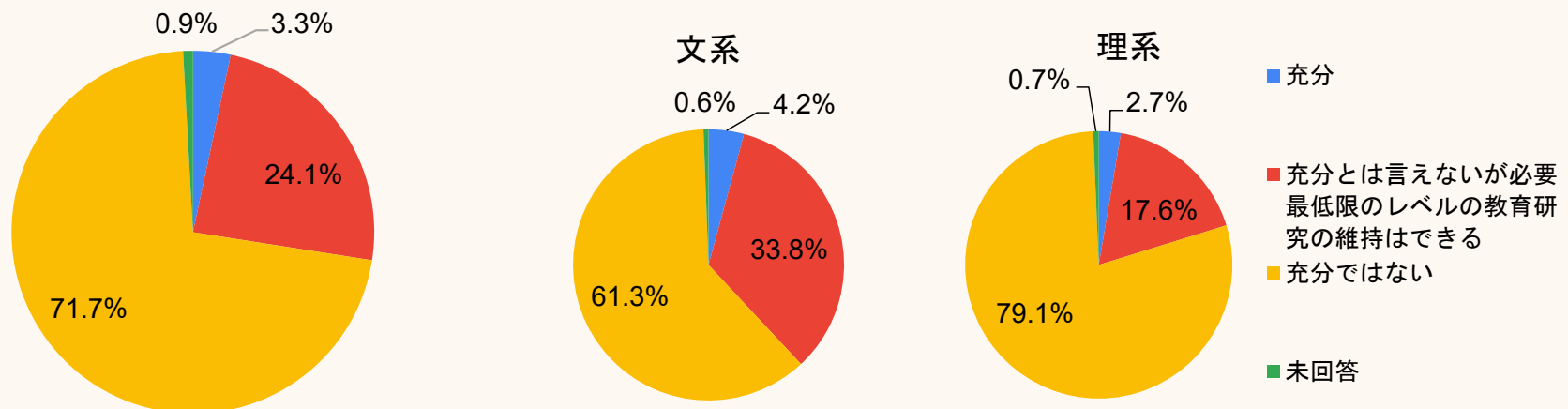
2022年度に大学等から配分された年間の校費の額

- 「30万円未満」 全体で56.2% 文系で71% 理系で45.8%



大学等から配分される校費は教育研究を行うのに充分ですか？

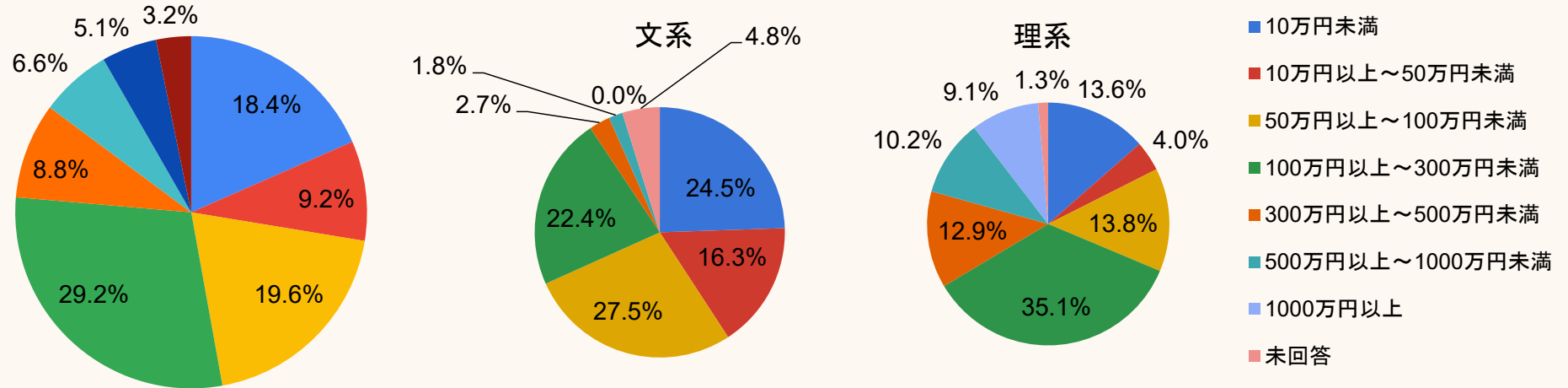
- 「充分ではない」 全体で71.7% 文系で61.3% 理系で79.1%



3. 外部資金の金額

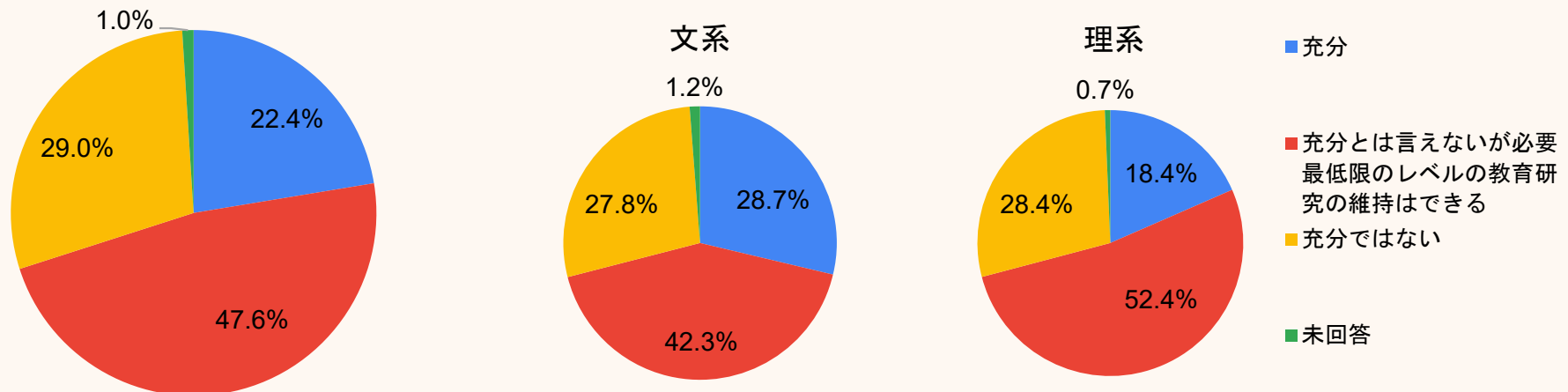
2022年度に獲得した外部資金の額（科研費、プロジェクト経費など）

- 文系 「50万円以上100万円未満」 27.5% 「10万円未満」 24.5% 「100万円以上300万円未満」 22.4%
- 理系 「100万円以上300万円未満」 35.1% 「10万円未満」 13.6%



校費と外部資金を合わせると教育研究を行うのに充分ですか？

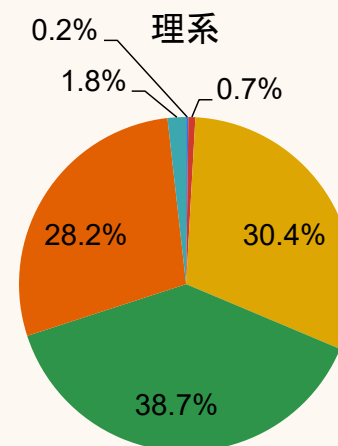
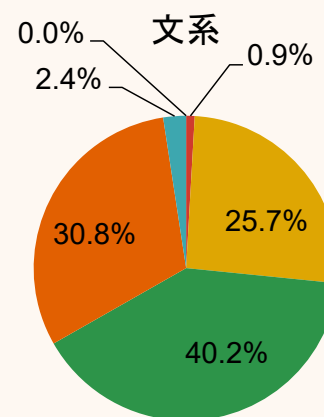
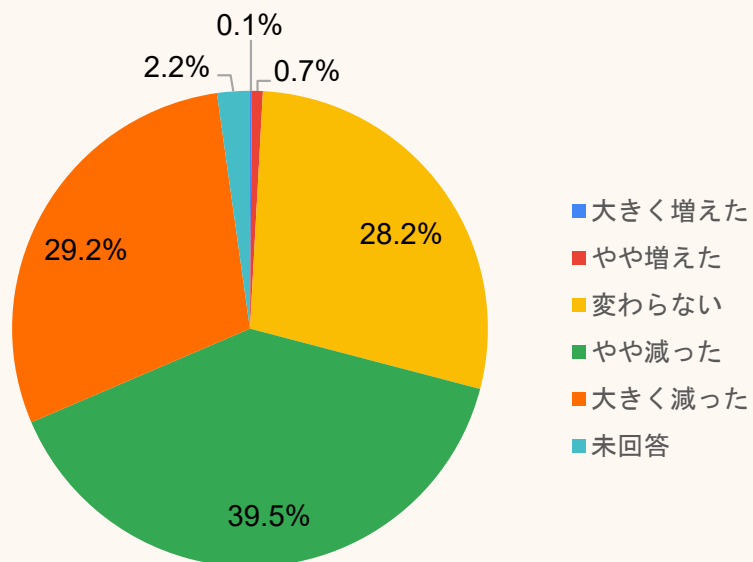
- 「充分とは言えないが必要最低限のレベルの教育研究は維持できる」 文系42.3% 理系52.4%
- 「充分でない」 文系27.8% 理系28.4% 「充分」 文系28.7% 理系18.4%



4. 校費のここ数年の変化

大学等から配分される年間の校費のここ数年の変化

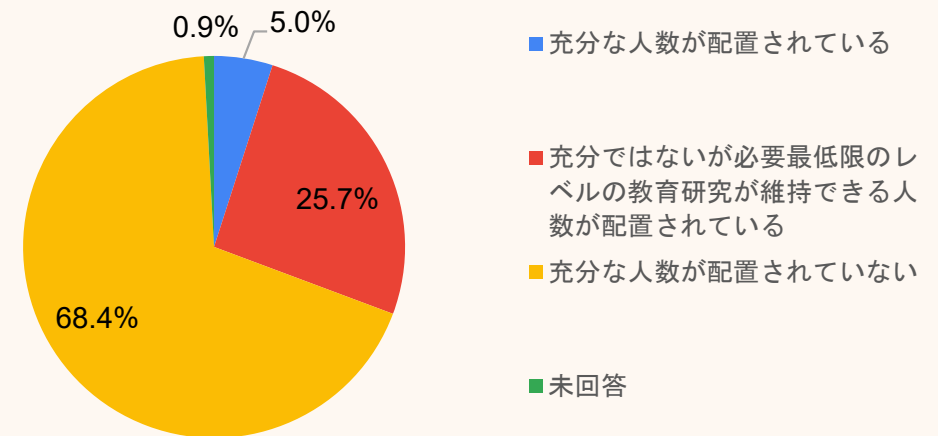
- 「減った」 68.7%（「やや減った」 39.5% 「大きく減った」 29.2%）



5. 教員数

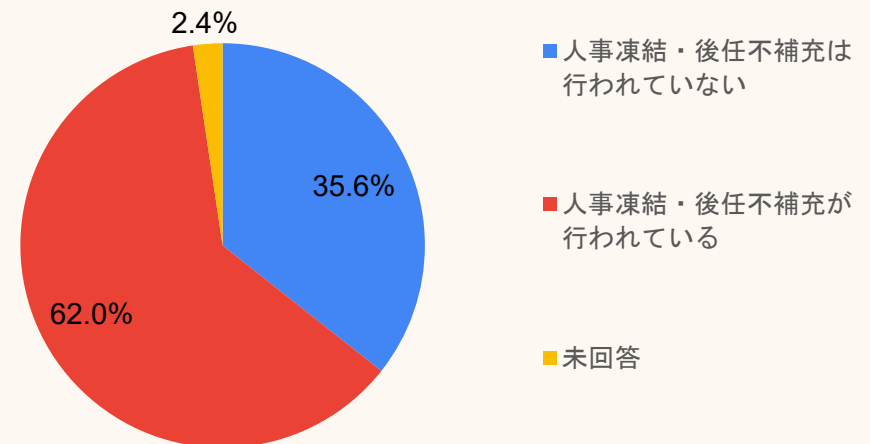
教育研究を行うのに十分な教員数が配置されていますか？

- 「十分な人数が配置されていない」 68.4%
- 「充分ではないが必要最低限のレベルの教員数が維持できる人数が配置されている」 25.7%



常勤の教員（期限付きのプロジェクト等で雇用されている方や非常勤講師等ではない教員）の人事凍結・後任不補充は行われていますか？

- 「人事凍結・後任不補充が行われている」 62.0%

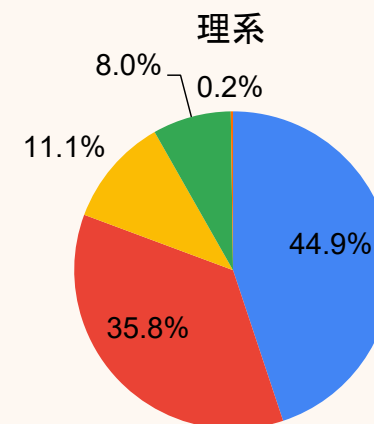
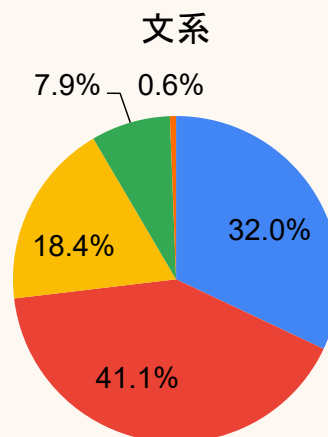
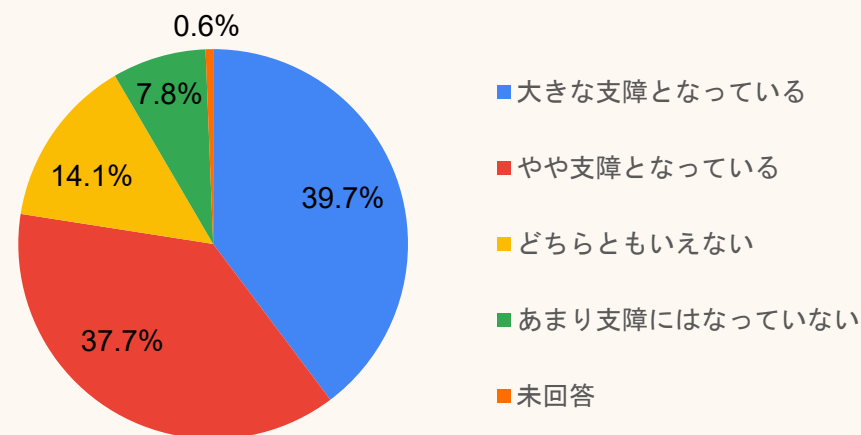


6. 充実した研究を行う上での支障（1）「研究費」について

- 充実した研究を行う上で研究費が「支障となっている」 77.4%
（「大きな支障」39.7% 「やや支障」37.7%）
- 自由記述では、研究費の不足から、「出張（特に海外）に行けない」「資料や備品が購入できない」「外部資金獲得のための申請書作成に多くの時間がとられて研究ができない」といった声が目立ちました。教員が自費を持ち出して研究を行っているという状況も一定数ありました。

自由記述（587件）から抜粋

- 数十万円単位の自費を持ち出して研究をしています。
- 学会年会費と授業コピー、その他のランニングコストを払えば消えていくレベル。科研テーマ以外の研究に充てられる予算はなく、研究の種まきすらできない。
- 物価高騰によって、研究に必要な原材料・消耗品（専門道具類含む）の費用が増加し、対応できていない。
- 恒常的な研究費が激減し、プロジェクト経費が増えるばかりで、長期的な展望での研究が実施できない。目先の成果を求めることばかりを続けていると、真に独創的な研究は生まれない。
- 競争的資金の研究時間は数年間ですが、たった数年でまた論文を出さないと次の競争的資金に採択されないの、成功可能性は高いがインパクトの少ない研究ばかりする悪循環に陥って国際的なプレゼンスが低下します。

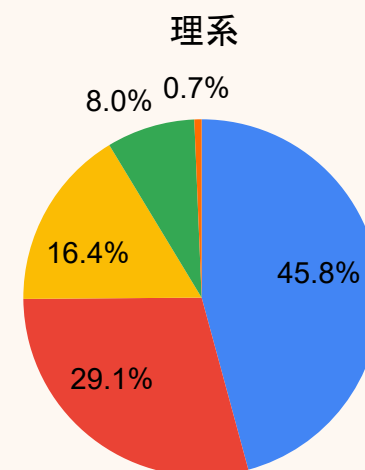
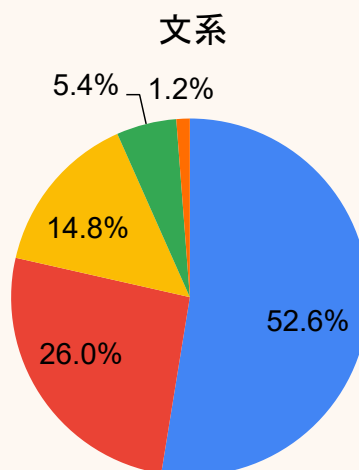
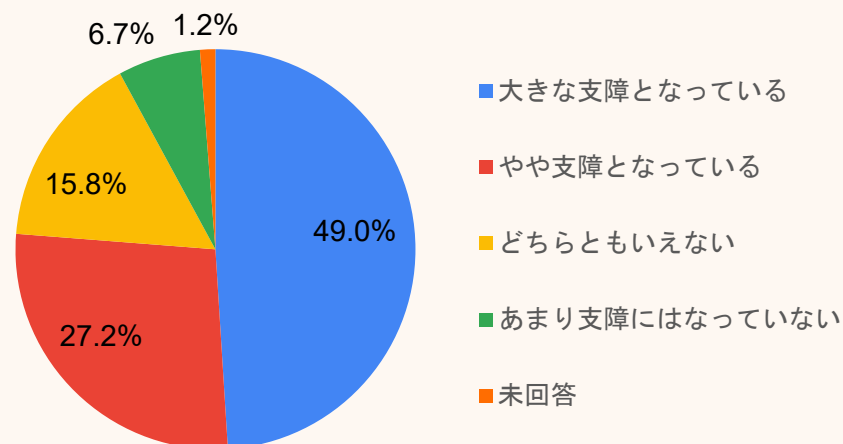


6. 充実した研究を行う上での支障（2）「教員数」について

- 充実した研究を行う上で教員数が「支障となっている」 76.2%
（「大きな支障」49.0% 「やや支障」27.2%）
- 自由記述では、教員数の減少により、「授業負担が増えた」「校務（事務仕事、雑務、学内行政、会議）が増えた」との声が多く、この二つが大部分を占めました。また、特定の教員に業務が集中している問題の指摘もありました。

自由記述（560件）から抜粋

- 学部として開講すべき科目の教員が得られていない。
- 大学運営業務の負担が激増する、授業負担が増える、学内での研究交流・共同研究が望めないという支障がある。
- 後任の補充がされない一方で、新しいプロジェクトの立ち上げは求められ、さらに、従来の業務が減るわけでもないのに、一人でいくつもの仕事をこなさなくてはならない
- 学生対応、地域連携、研究予算の獲得など教員に求められるものは年々増加するが、教員数は削減されており明らかに無理が生じる構造のもとで大学が運営されている。

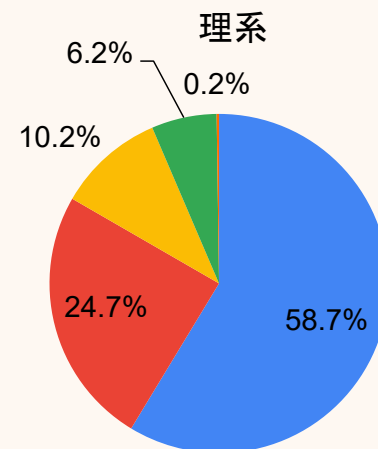
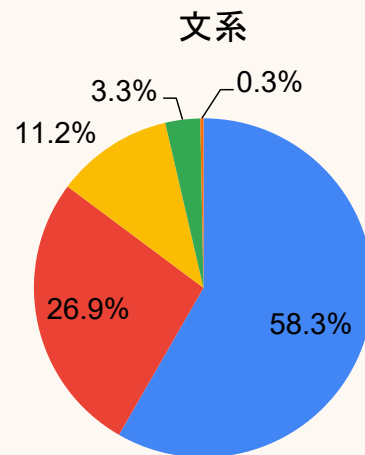
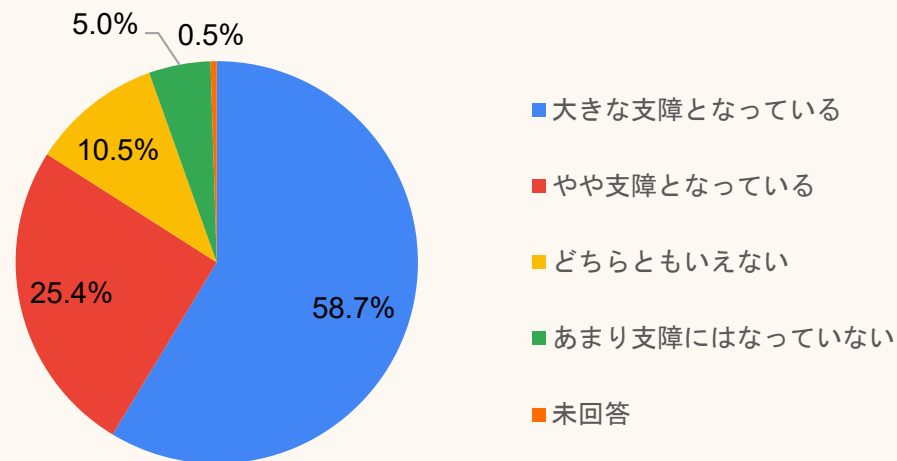


6. 充実した研究を行う上での支障（3）「研究時間」について

- 充実した研究を行う上で研究時間が「支障となっている」 84.1%
（「大きな支障」58.7% 「やや支障」25.4%）
- 自由記述では、「校務（事務仕事、雑務、学内行政、会議）が増えた」という回答が大部分を占めました。「そもそも研究ができない」という切実な記述も多くありました。

自由記述（625件）から抜粋

- 教員数が激減したため、大学運営業務が激増し、まとまった研究時間・研究日を確保できない。RAなど研究支援員の雇用ができない。
- 教学マネジメントや組織改革、各種評価等にとともなう会議や資料作成、書類作成に要する時間が多くなりすぎている。
- 予算のやりくりの方法や、融通の利く外部資金を獲得するための申請書の作成時間など、基盤的予算に余裕があれば削減可能な時間も多く、研究時間にまわすことができれば助かる。
- 研究費用が足りないことで、常に研究費の申請書を書いている状況で、研究時間は十分でない。また研究時間が足りないことは、本腰を入れて10年スケールで大きな研究課題に挑戦する機会を著しく減少させている。現状としては、予算が取りやすい、小さな研究費に応募し、数年スケールの研究課題を考えることが多く、大規模な研究課題を考える時間や環境が不足している。

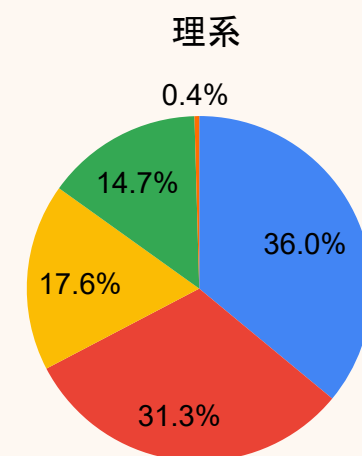
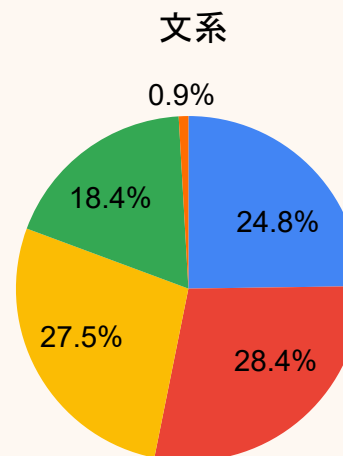
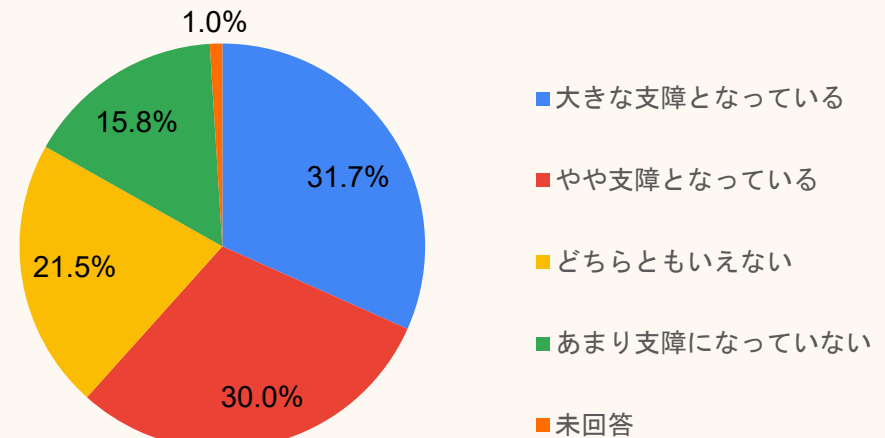


6. 充実した研究を行う上での支障（4）「設備等の研究環境」について

- 充実した研究を行う上で設備等の研究環境が「支障となっている」 61.7%
（「大きな支障」31.7% 「やや支障」30.0%）
- 自由記述では、「設備が古い・更新できない」という声が大多数を占めました。「図書館で購読するジャーナルが不足」など、図書館の機能低下をうかがわせる声も多くありました。なかには「研究室や実験室にエアコンがない」という驚くべき回答もありました。

自由記述（466件）から抜粋

- 専門研究で参照すべきジャーナルが、ほぼ大学契約の電子ジャーナルでは読めない。そのほかのデータベースも、個人で契約して利用しているケースがある。
- 老朽化が進み、故障がちであるが、修理費用の捻出に四苦八苦している。装置が陳腐化しており、最新研究は諦め、できるテーマで研究しているのが現状である。
- 機器が高価であるため、一研究室で購入することは困難である。そのため、共通機器として学部に導入して欲しいが、優先順位の都合で購入できる見込みが全くない。大型の研究費が獲得できれば購入も可能であるが、大型競争的研究費の獲得が非常に困難であるため、あまり期待できない。研究機器が壊れても修理費の捻出も年々困難になっている。つまり、研究費の削減が全ての原因であると考えられる。基盤的経費の削減と一極集中型の研究費投入型という現在の状況で、疲弊している研究室がかなり多いと思われる。

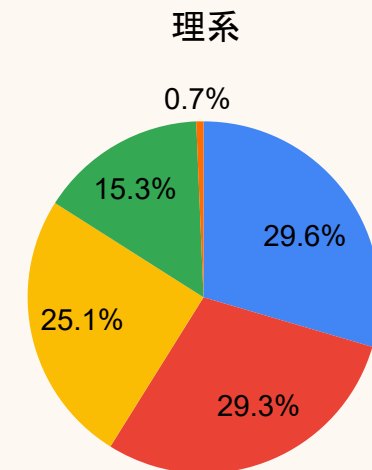
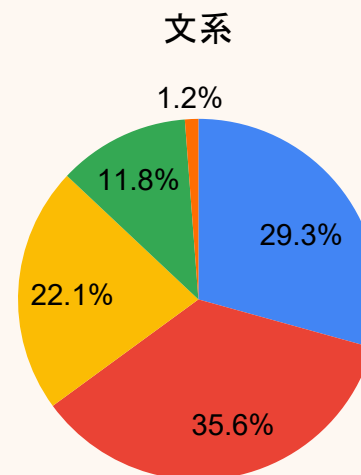
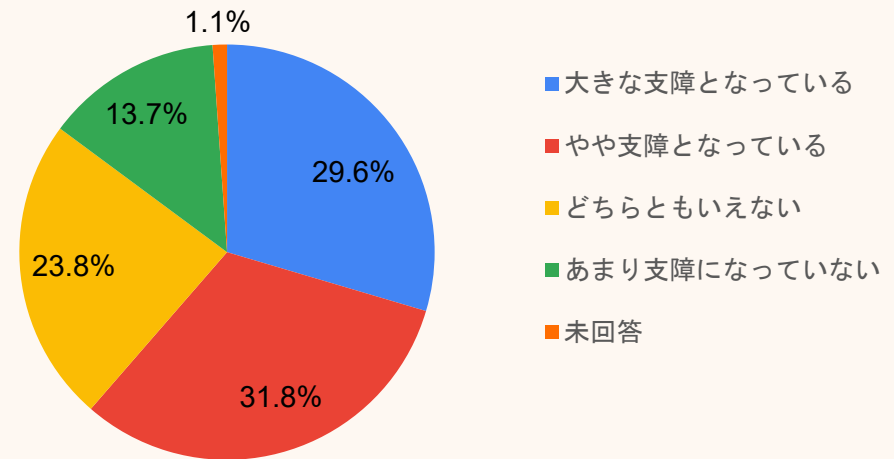


7. 充実した教育を行う上での支障（1）「教育にかかる費用」について

- 充実した教育を行う上で教育にかかる費用が「支障となっている」 61.4%
（「大きな支障」29.6% 「やや支障」31.8%）
- 自由記述では、「文献や実験用の器材薬品などが購入できない」という声が大多数を占めました。こちらの項目に対しても「図書館で購入するジャーナルの不足」を指摘する声もありました。「教育費が配分されていない」という声も散見されました。通常、研究費は外部資金等で賄うことも可能ですが教育費はそれがほぼ不可能ですので、運営費交付金からの教育費の配分がなされていないとすれば、教育環境がきわめて劣悪になることが憂慮されます。

自由記述（406件）から抜粋

- 電子ジャーナルやデータベースが不十分
- 学生の教育水準や指導のレベルを上げるためには、学会に同行させたり、フィールドワークに同行させたりすることが不可欠である。しかし、今はそれもできない。
- 学生実験や実習などに使える費用が少なすぎて、十分な実験や実習が行えない。実験・実習内容を決める際に、学問としての必要性よりもコストを優先せざるを得なくなっている。
- 外部資金は目的が決まっているので、その目的とは異なる新しいことを始めたい、探りたいと思った時に使える資金としての校費ありがたい存在だったが、それを減額されると、新しいことをやりたいと言った学生の教育ができない。

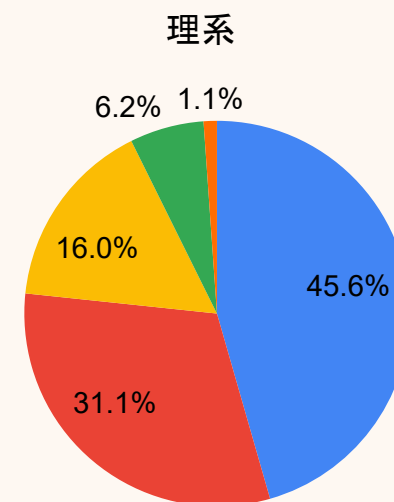
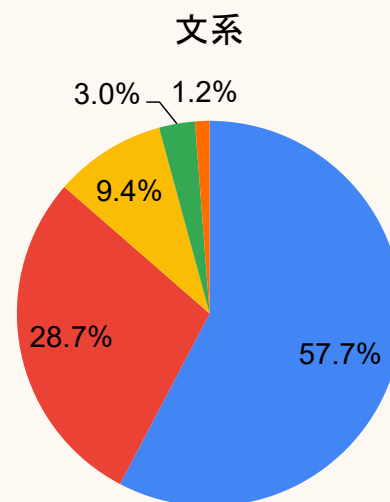
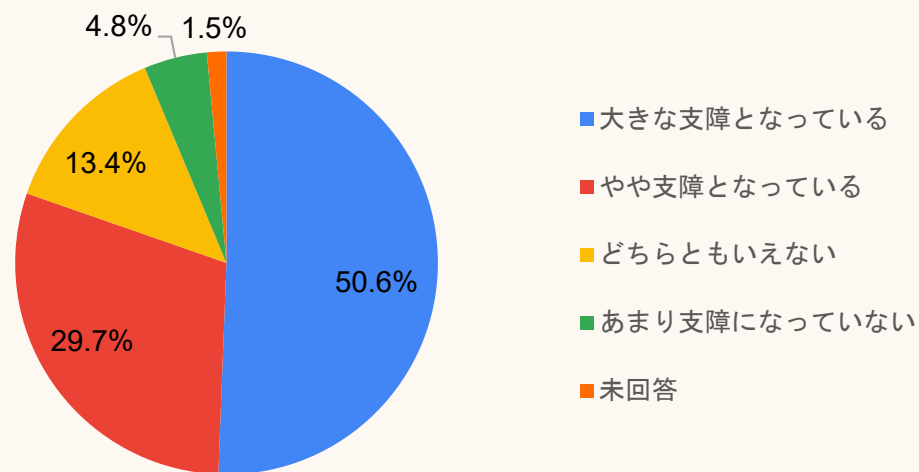


7. 充実した教育を行う上での支障（2）「教員数」について

- 充実した教育を行う上で教員数が「支障となっている」 80.3%
（「大きな支障」50.6% 「やや支障」29.7%）
- 自由記述では、「授業負担が増えた」という回答が大多数を占めました。必要な専門分野の教員の後任不補充などの声も多く寄せられました。そのほか、「一部のみに負担が集中している」という回答も目立ちました。

自由記述（530件）から抜粋

- 教員数が少なく、演習や卒業研究指導などの少人数科目の指導負担が過大になり、一人一人への手厚い指導が難しくなっている。
- 必要な科目が提供できていない。
- 必要授業を確保するために担当コマ数が増加し、大きな負担になっている。
- 教員数が減るということは、部局がカバーする専門分野や研究トピックの幅が狭まるということであるが、それは学生にとって「選択肢が減る」ということであり、教育への悪影響は多大である。
- 教員数の減少のため、科目削減、ゼミ削減、になり教育内容の充実とは反対の方向に進んでいる。教員は1人あたりの負担も増えている。

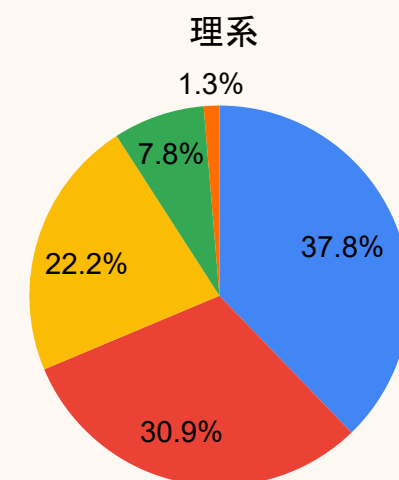
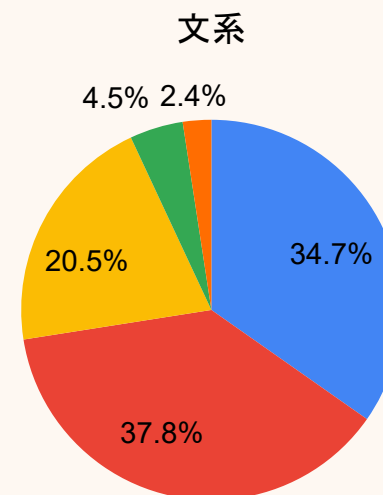
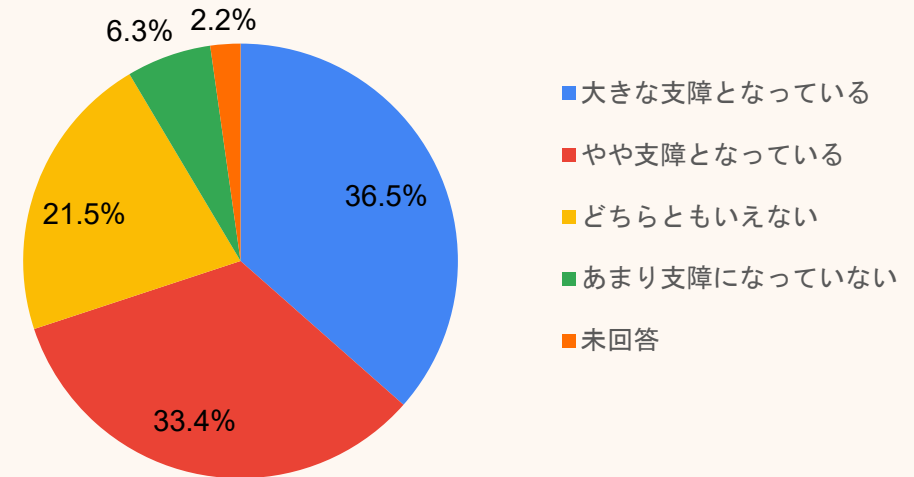


7. 充実した教育を行う上での支障（3）「教育にかける時間」について

- 充実した教育を行う上で教育にかける時間が「支障となっている」 69.9%
（「大きな支障」36.5% 「やや支障」33.4%）
- 自由記述では、「授業コマ数が多い」「校務が多くて講義の準備に時間が取れない」という声が多く見られました。「個々の学生への対応が手薄になる」といった指摘も多くありました。

自由記述（458件）から抜粋

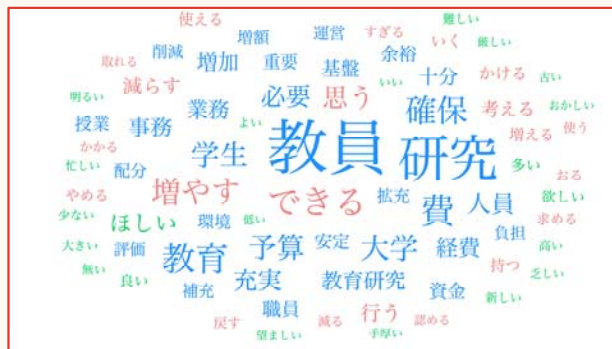
- 教員数の減少で担当するゼミ生の人数が増加すると、一人の卒論指導に費やせる時間が減少せざるを得ない。
- 大学・学部運営、改革や書類づくりなど、授業や研究以外の雑務が多く、本来の業務（教育研究）に充当できる時間がどんどん減っている。
- 担当講義数、運営業務などの負荷が大きすぎるため、講義資料の見直しや研究室学生との議論に割く時間が圧倒的に足りない。
- 新しい研究を紹介したい。深く事象を説明し、理解を促したい。自身の研究と教育は連動する。その準備にかける時間がない。



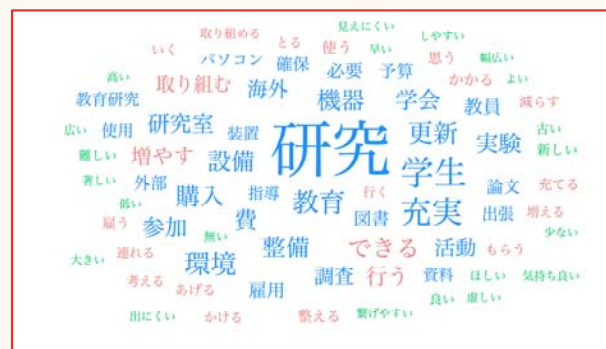
8. 教育研究の充実にむけて重要なこと、優先して取り組みたいこと

- 「教育研究の充実にむけて重要と思うこと」については、「予算」「人」「時間」の三つが大半を占めました。
- 「校費が充実したら優先して取り組みたいこと」については、ほとんどが「研究」で、次いで「教育」でした。
- 「十分な教員数が配置されたら優先して取り組みたいこと」についても、大多数が「研究」と「教育」でした。大学教員は、ほうっておいても研究したい、教育したいのです。

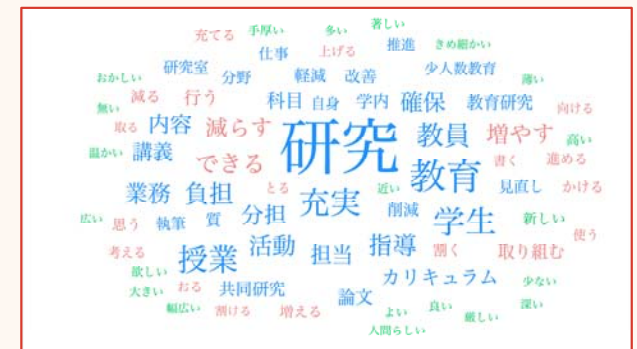
教育研究の充実にむけて重要と思うこと（自由記述627件）



校費が充実したら優先して取り組みたいこと（自由記述613件）



十分な教員数が配置されたら優先的に取り組みたいこと（自由記述613件）



- ✓ 国立大学等の運営費交付金は、法人化以降、減少し、加えて、「共通指標」や「ミッション実現」といった運営費交付金のなかでの評価配分がされている。 ⇒ 基盤的経費の減少と不安定化
- ✓ 各大学では競争的資金・外部資金の獲得で対応するが、競争的資金・外部資金は時限・用途特定であることから、長期的課題への対応や教員の自由な発想による教育研究への対応は難しい。
- ✓ 質の向上や国際競争に伴う教育研究に必要な経費の増加、最近では電力料金や教育研究資材の高騰も大学運営を圧迫。
- ✓ 運営費交付金の基盤的部分の減少で、教育研究内容の制限、常勤教員の減少、教育研究以外の業務の増加、任期付きポストの増加と若手育成への影響。

- ☞ 運営費交付金を増やし、安定的に措置することを要望します。
- ☞ 電力料金や教育研究資材の高騰への緊急支援を行うことを要望します。

別記：質問項目

国公立大学・大学共同利用機関・国立高専で働く教員のみなさんへ
基盤的経費の減少・不安定化の影響アンケート

国立大学等の運営費交付金については、総額はここ数年横ばいが続いていますが、その内容をみると業績連動的な部分が増加し、教職員の人件費等に使える基盤的な部分は減少・不安定化してきています。そのため大学運営は大変厳しい状況となっており、各大学の教職員からは、「研究費が足りない」「人員が足りない」といった声が聞かれます。また、教育研究の高度化や最近のインフレ傾向のなかで教育研究に必要な経費は年々増加しています。

そこで、各大学の教員の教育研究環境に焦点を当てて、各大学でどのような影響が生じているのかを調べることを目的に本アンケートを実施します。本アンケートで得られた回答は、全大教が行う文科省や財務省への要請、全大教の会議等のイベントなどで活用いたします。アンケートでは個人を特定することの可能な情報は収集せず、自由記述についてもそのままの内容ではなく類似の内容を取りまとめた形で利用いたします。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

(ご自身の状況と質問が合わないことがあるかと思いますが、可能な範囲でご回答ください)

【質問 1】 2022 年度に大学等から配分された年間の校費の額はいくらですか？

- 10 万円未満
- 10 万円以上～30 万円未満
- 30 万円以上～50 万円未満
- 50 万円以上～70 万円未満
- 70 万円以上～100 万円未満
- 100 万円以上～150 万円未満
- 150 万円以上～200 万円未満
- 200 万円以上

【質問 2】 2023 年度に大学等から配分される年間の校費の額はいくらですか？ 2023 年度の配分額がまだ決まっていない場合は【質問 3】以降にお進みください。

- 10 万円未満
- 10 万円以上～30 万円未満
- 30 万円以上～50 万円未満
- 50 万円以上～70 万円未満
- 70 万円以上～100 万円未満
- 100 万円以上～150 万円未満
- 150 万円以上～200 万円未満
- 200 万円以上

【質問 3】 2022 年度に獲得した外部資金（科研費、プロジェクト経費など）の額はいくらですか？

- 10 万円未満
- 10 万円以上～50 万円未満
- 50 万円以上～100 万円未満
- 100 万円以上～300 万円未満
- 300 万円以上～500 万円未満
- 500 万円以上～1000 万円未満
- 1000 万円以上

【質問 4】 大学等から配分される年間の校費は教育研究を行うのに充分ですか？

- 充分
- 充分とは言えないが必要最低限のレベルの教育研究の維持はできる
- 充分ではない

【質問 5】 大学から配分される年間の校費と外部資金を合わせると教育研究を行うのに充分ですか？

- 充分
- 充分とは言えないが必要最低限のレベルの教育研究の維持はできる
- 充分ではない

【質問 6】 大学等から配分される年間の校費のここ数年の変化はいかがですか？

- 大きく増えた
- やや増えた

- 変わらない
- やや減った
- 大きく減った

【質問 7】 教育研究を行うのに十分な教員数が配置されていますか？

- 十分な人数が配置されている
- 充分ではないが必要最低限のレベルの教育研究が維持できる人数が配置されている
- 十分な人数が配置されていない

【質問 8】 常勤の教員（期限付きのプロジェクト等で雇用されている方や非常勤講師等ではない教員）の人事凍結・後任不補充等は行われていますか？

- 人事凍結・後任不補充は行われていない
- 人事凍結・後任不補充が行われている

質問 9 では、充実した研究を行う上での支障についてお聞きます。9-1 で研究費について、9-2 で教員数について、9-3 で研究時間について、9-4 で設備等の研究環境について、それぞれ支障になっているかどうかを教えてください。

【質問 9-1-1】「研究費」について

- 大きな支障となっている
- やや支障となっている
- どちらともいえない
- あまり支障にはなっていない

【質問 9-1-2】「研究費」について、支障になっていることを具体的に教えてください。

【質問 9-2-1】「教員数」について

- 大きな支障となっている
- やや支障となっている
- どちらともいえない
- あまり支障にはなっていない

【質問 9-2-2】「教員数」について、支障になっていることを具体的に教えてください。

【質問 9-3-1】「研究時間」について

- 大きな支障となっている
- やや支障となっている
- どちらともいえない
- あまり支障にはなっていない

【質問 9-3-2】「研究時間」について、支障になっていることを具体的に教えてください。

【質問 9-4-1】「設備等の研究環境」について

- 大きな支障となっている
- やや支障となっている
- どちらともいえない
- あまり支障にはなっていない

【質問 9-4-2】「設備等の研究環境」について、支障になっていることを具体的に教えてください。

質問 10 では、充実した教育を行う上での支障についてお聞きます。10-1 で教育にかかる費用について、10-2 で教員数について、10-3 で教育にかかる時間について、それぞれ支障になっているかどうかを教えてください。

【質問 10-1-1】「教育にかかる費用」について

- 大きな支障となっている
- やや支障となっている
- どちらともいえない
- あまり支障にはなっていない

【質問 10-1-2】「教育にかかる費用」について、支障になっていることを具体的に教えてください。

【質問 10-2-1】 「教員数」について

- 大きな支障となっている
- やや支障となっている
- どちらともいえない
- あまり支障になっていない

【質問 10-2-2】 「教員数について、支障になっていることを具体的に教えてください。

【質問 10-3-1】 「教育にかかる時間」について

- 大きな支障となっている
- やや支障となっている
- どちらともいえない
- あまり支障になっていない

【10-3-2】 「教育にかかる時間」について、支障になっていることを具体的に教えてください。

【質問 11】 教育研究の充実にむけて重要と思うことは何ですか？ 具体的に教えてください。

【質問 12】 校費が充実したら、優先して取り組みたいことは何ですか？ 具体的に教えてください。

【質問 13】 十分な教員数が配置されたら、優先的に取り組みたいことは何ですか？ 具体的に教えてください。

【質問 14-1】 あなたの属性について教えてください。ご所属は次のうちどれですか？

- 国立大学
- 公立大学
- 大学共同利用機関
- 国立高専

【質問 14-2】 よろしければ所属機関名を教えてください。

【質問 14-3】 あなたの専門分野は次のうちどれですか？

- 人文社会科学・芸術教育系
- 理工・農水学系
- 医療保健学系
- その他

【質問 14-4】 あなたの職階は次のうちどれですか？

- 教授
- 准教授・講師
- 助教・助手
- 特任・特命
- 非常勤講師

【質問 14-5】 あなたは組合に加入していますか？

- 加入している
- 加入していない